学校番号 C2101　桃谷(通)　　令和2年度 国語科

科目名 ：	基礎国語	単位数 ： 2 単位	必要スクーリング出席回数： 2 回
使用教科書 ：：なし			
学習書 ・副読本 ：：クリアカラー国語便覧 (数研出版)			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	6 枚	2 枚	2 枚	2 枚
スクーリング [S]	8 回	3 回	3 回	2 回
テスト [T]	1 回	×	×	○
その他 (課題・実習等)				

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

レポートは、学習書・副読本や辞書を利用することで、国語が苦手な人でも完成できます。間違って覚えてしまっている漢字や慣用句、四字熟語があります。すべての問題を一つ一つ教科書で丁寧に確認してレポートを完成させ、期限までに提出するようにしましょう。

2 学習の到達目標

国語を的確に理解し、適切に表現するために必要な知識、技能を身につけるとともに、言語に対する関心を高め、言語感覚を磨き、国語の力の向上を図る。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：話す・聞く能力	c ：書く能力	d ：読む能力	e：知識・理解
観点の趣旨	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。		自分の考えをまとめたり、深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて適切に文章を書くための基礎的な国語力を身につけている。	自分の考えを深めたり、発展させたりしながら、目的に応じてさまざまな書物を的確に読み取ったり、読書に親しんだりするための基礎的な国語力を身につけている。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価方法	・観察 (スクーリング) ・記述の点検 (レポート)		・記述の確認及び分析 (レポート) ・定期考査	・記述の確認及び分析 (レポート) ・定期考査	・記述の確認及び分析 (レポート) ・定期考査

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	e	単元(題材)の評価規準	評価方法
1範囲	漢字の基礎知識を学ぼう（基礎）	1　漢字の知識 2　対義語･類義語 3　同音異義語 4　同訓異義語（同訓異字）	○		○	○	◎	a　教科書や辞書を適切に用いて、レポートに取り組み、期限を守って提出している。 c　レポートに取り組む際は、教科書を参照して正しく記述することができる。 d　レポートに取り組む際、必要に応じて教科書や辞書を正しく参照することができる。 e　漢字の成り立ちや､部首、対義語、類義語、同音異義語、同訓異義語を正しく理解し、使えるようになる。	・レポート
2範囲	語彙を豊かに（基本）	1　四字熟語 2　三字熟語 3　難読語	○		○	○	◎	a　教科書や辞書を適切に用いて、レポートに取り組み、期限を守って提出している。 c　レポートに取り組む際は、教科書を参照して正しく記述することができる。 d　レポートに取り組む際、必要に応じて教科書や辞書を正しく参照することができる。 e　四字熟語や三字熟語の意味と用法を正しく理解し、使えるようになる。また、いわゆる難読語を読めるようになる。	・レポート
3範囲	ことわざや慣用句を学ぼう（発展）	1　ことわざ 2　慣用句 3　故事名言	○		○	○	◎	a　教科書や辞書を適切に用いて、レポートに取り組み、期限を守って提出している。 c　レポートに取り組む際は、教科書を参照して正しく記述することができる。 d　レポートに取り組む際、必要に応じて教科書や辞書を正しく参照することができる。 e　ことわざ･慣用句･故事名言の成り立ちや意味を理解し、正しく使えるようになる。	・レポート ・定期考査

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：話す・聞く能力　　c：書く能力
d：読む能力　　e：知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関わる観点には◎を付している。